

惡鬼充滿の世に出で法華經の題目を以て迷へる人類をして悟の彼岸に到達せしめんことを。嗚呼その大悲に思ふべし。報恩鈔に「日蓮が慈悲廣大なれば南無妙法蓮華經は萬年の外、未來迄も流布すべし云云」聖言虛しからず。今や我が大師去つて六百五十星霜然れ共その教や益々廣く、その渴仰や愈々多し、然れ共大法獨り弘まらず、古人云々大法の隆夷は正に其人に依ること、如是き大人格者、大教義、大慈悲を普く天下に説き以て社會を善導し發展せしむるものは唯吾本代の徒のみ有つて存す、勵まざるべけんや。



如何にして人心を統一し國民精神作興の 實を擧ぐべき乎

古 童 每 水

社會に對して學校教育以上の効果を奏しつゝありと謳歌さるゝと共に、又一面に於て民心をして幾多の弊害へ導くものは是れ實に新聞紙及び雜誌等の文書類にあらずや、而して讀者も亦一日たりとも之を手離す能はざること恰も食餌の必須なるに相似たり、近來我國有識階級に國民精神作興、又は人心の歸嚮統一を圖らざるべからざるを論ずる者あり、然るに言論の自由が憲法に於て保證されたる我國に於て人心を統一せんとするは此に多少の詮衡を要する所なるべし、言論を自由にして置きつゝ思想を統一せんとするは、猶堤防を撤して水を一所に落さんとすると一班なり、夫れ昔時に於ける我國の民心は其指導を政治家に俟ちし所多かりしなり、然るに近來に至り専ら新聞雜誌著述物等の言論機關及び多少の藝術等に依りて感化指導され、政治は殆んど事務の上に局限されたる感なき能はず、就中日日各新聞によりて報道され記事に載せらるゝ諸事項は、如何に人心を左右するかは喋々するを要せざるなり、而し其の一思想の潮流の漲るに至りてや、中央政府の威嚴を以てするも、尙其の一喝に遇へば忽ち昨日の命令を撤去して今日の鼻息を窺はざるべからざる

ほどの、最高所に立ち幾千萬の國民を指導して思ふが儘に左右來せしめつゝあり、然るに斯の如き能力を有する新聞紙等は果して何人の手によりて書かれつゝあるかは、國民の過半は殆んど無注意の状態にあるが如き感なき乎、吾人は茲に多少の考察を爲さざるべからず、げに其の記者や能文多藝の士多く、博學達識の人亦尠しとせず、然りと雖も唯それ國民の所謂指導者として仰ぐべき者實に此の人なるべしと首肯さるゝ人格者の甚だ少なきが如く感ぜらるゝは確かに社會の大なる缺點と云ふべし、この點を看過して人心の指導を論ずるは甚だ徒勞に歸し國家の憂とする所なり、慊らざるもの豈ひとり新聞紙等のみならむや、職業は總じて社會の奉仕なりと云ふ見地より見れば、何業に對しても多少の不足を言ひたきは常なり、されど自らも社會の木鐸を以て許し、高く社會の耳目を以て任じ、而して事實上政治家以上に人心を指導する著述家の多數が今日に於ける状態に對しては憂世者の甚だ不満足に感ぜざるを得ず、殊に今日凡百の職業中新聞紙の報道はご其の職に忠實ならざるもの他になかるべし、これ正直のみの報道にては紙面の寂寞を感ずればなるべし、力めて人の感情を刺戟する報道にあらざれば、多數同業の中より見逃されんことを恐れ、又昨日の他社より出せしを今日するは報道の遅きを慮り、正誤をなす時は不詮鑿を曝らざるべからざるを醜ぢ、而して其の記事に於ては攻撃的破壊的に傾きしは是れ多數の下層社會に媚びる爲めならむ、こは上流の讀者に於けるも下層の讀者に於けるも一ヶ月の新聞紙代の同じければなるべし、實に下層は概して現状打破を希望し、從つて保護よりも攻撃を、保存よりも破壊を好む心理を有すれば、此の勢に乗じて唯其の賣れんことのみを希ふなり、されば此の種のものは何なる時に於ても其の社會を呪咀して止まざるを任務となさざるべからざるに至る、彼の新聞紙の如き特に人心を左右すべきものは其の報道よりも記事よりも其の論説にあり。

抑も其の論説を書く人は概して論説を書かじめむとして備はれし人なり、定められたる月俸を以て問題の有無に關せず、又思想の起不起に拘らず、其れ相當の數に滿つるだけの論説を書かざるべからず、而かもそれが真逆其れ程に至らずとも、定論成法の講義のみには行かずして、所謂名論卓説を始終出さざるべからざるに至る、是れ實につらき商賣ならずや、其の他論説製作を豫約せる人の外に論説製作を内職とせる階級の

人もあり、こは收入と云ふ束縛なしと雖も偶々大向の好評と報酬の甘味に惑はされ遂には意見の有無に關せずして筆を執るに至る、是の如く現今我國に於ても論說屋と云ふ一種の商賣人否職工あるに至りしなり、勿論これ以外に報酬の爲めにあらずして、全く社會に問はざるべからざる意見、或は不平ありて自ら進んで著述又は投書する人無きにあらねど、實はかゝる人は稀なり、斯くして成りたる論說が其の界を脱して實行に入る迄は實に紙一重なり、思想が言論に限られて居る間は如何なる議論も大害なれど一度實行の域に入るに至りては、直ちに邦家の運命に關すること尠からざるなり、故に國民の思想問題一に茲に繋り居と云ふも過言にあらず。

誠に夫れ政治の大目的は人心の統一國民精神作興にあり、然れば則ち政治家は常に民意の存する所のみ測量して只其多數の意に従はざるべからずとせば、問題によりては、其の多少の測量に非常に困難すべきに至るべし、されば言論は絶対に自由なりと雖も要は國民相互の自覺に上せたる上に於て其の取捨撰擇は最も肝要とする所なり、故に言論は國民多數の意思を以て嚴重に取り締らざるべからず、此の意味に於て國民全體の意思を代表せる政治家によりてならば、如何に嚴重に取り締るも何等差支なかるべしと信するなり、但此に最も慎重に考へざるべからざるは其の局に當る者の人格なり、こは獨り政治家のみならず、世道人心の指導者として自らも許し、社會もさこそと疑はざる宗教家にありては最も反省すべき重大事なり、然るに今は主として國民の頭上に立つて直接政治の舞臺に國家經綸の表に在るものに言を寄せたるなり、誰も言ふ近來我國の思想界は、歐洲大戰以來種々の新思想混入し來りて人心輕跳浮薄に流れ社會の現状甚だ憂慮に堪へざるを以て、國體の精華たる忠孝節義の道義を獎勵鼓吹して思想を善導し國民の精神を維持して外來の思潮に打勝たさるべからずと、これ尤もの言ひぐさなり、されど思ふに忠孝と云ひ仁義と云ひ將た又節義と云ふが如き何れも人生に重んず可き徳義にして其の性質に於ては一點の申分なきものなれども、唯この單純一偏の主義を以て今日の新思想を制せんとするは猶は劍道柔道を以て新式の機關銃に當らんとするものゝ如し、劍道柔道古しと雖も自ら其の用あり唯之を以て新式の武器に當らしむるの不可なるを知らざるべからず。

外來の思想をば疑心暗鬼一概に之を危險視し然も形式一偏の主義を以て之を制せんとするが如き實際に於て其無効なるを斷言せざるを得ざるなり、教育進み文化遍く人間の智徳は上下を通じて大差を見ざるの今日、自ら世道人心の指導を以て任じて醜ぢざる政治家乃至宗教家が其の策に於て其の人格に於て何等の反省するなくんば國民の思想を示導せんとするが如きは一種の滑稽にして又餘計のお世話と云はざるを得ず、然れども是等の人が果して人心の不安を以て憂慮に堪へずと爲し飽くまでも國民の思想上最善の努力を致すの精神あらんには爰に一法あり、即ち當の御本人が常に尊信崇拜して措かざる所の古人の訓言を體し身を以て率先して躬行實踐を心掛くること是れなり、支那の聖人の言に治國平天下は修身齊家より始めざるべからずと云へり、是れ政治と道徳とを混同したる所謂儒教一流の説なれども、元來思想善導と云ふが如きは道徳に屬するものなれば當の御本人方に於かれても政治は主義や政策に依つて行ひ道徳は躬行實踐に依つて行ふの區別を明かにし、區々たる形式的手段や方法は一切斷念して先づ其の一身の私行を慎むは無論、平素の一言一行も苟にせずして自ら其の範を天下國民に示さんことを心掛くべし、要するに先づ躬行實踐自ら一身の言動を慎しむこそ肝要なれ、其の効果の如何は兎も角もとし其の爲す所は全く無害にして亦以て天下の風教に資せんとする當人の志にも負かざるべし、然らざれば千言萬語も實際に何等の効果あるべからず、況んや躬行實踐なくして憶面もなく壇上にあつて道徳を云云する所謂賣名の徒あらば民衆先づ其の人の人格の表裏を吟味して汝何んぞ慎まざると互に責善することなくんば大講話の法陣千蕤せるも竟に空しく國民精神作興も唯舌先のなぐさみ、功無きの勞は徒勞なり、識者それ之を知れ。





科學は果して宗教を葬むる乎

富田海音

一

凡そ人間は人間らしく生きねばならない、近頃一般社會は自然科學の發達によりて現在の宗教に對して假令態度に種々の相違はあるとしても一言にして之れを言へば侮蔑的な眼を以て見張る様になつた事は明かである。而して又之れに對する宗教家其れ自身に於ても自己の内面生活や傳統の宗團の制度を反省して其處に必ずしも彼等の視察の誤りでない事を考へさせらるゝ時、自家の生活形式の上に多くの矛盾を見出した事も疑ひない、そこで互に最も眞面目な最も尊い生活の意義を見出そうと努力する時、そこには互に一方を辯護し他方をこぎ落さうとするのは其の目的でないのは云ふ迄もなく、従つて兩者がかゝる間隔を永く維持すると云ふ事は、人間其のものゝ意義を遂に失却せねばならぬと云ふはめに到達するのも事實である、さればことに能ふ限りの公平な態度から宗教や科學が人間に對して如何なる關係と意義とを有してゐるか、而して人間は如何なる意識を以て之を迎ふべきかを考察して見やう。

二

先づ宗教と云ふ問題から一言せねばならないのであるが、一體宗教其のものを私達から見た場合、現今の多くの宗教家が實際に行つて居る様な偶像崇拜や死人の埋葬のみが宗教其のものであり、又宗教家の爲すべき仕事の凡てあるとは付うしても考へられない、又現に存在する幾多の既成宗教は、矢張り過去に於ける社會現象であり、其の當時の文化的現象であるとするならば、亦今日必ずしもそれが必要であるとは考へら